

鑑 定 意 見 書 (サンプル)

YYYY年MM月DD日

日本整形外科学会専門医

〇〇 〇〇

〇〇氏（19YY年MM月DD日生。以下、「患者」という。）の後遺障害について、検査画像、診断書等の各種資料を検討の結果、下記第1及び第3のとおり、医学的見解を申し述べる。

第1 画像所見及び診断名

1. 画像所見

YYYY/2/17 右下腿単純X線撮影 右2方向

- 脛骨・腓骨に明らかな骨折なし、関節アライメント良好。
- 足部は撮影条件より評価は不能である。

YYYY/2/18 両足部単純X線撮影 右4方向 左2方向

- 足関節周囲に明らかな骨折なし。関節アライメント良好。
- 右足部の内側・中間楔状骨骨折あり。リスフラン関節開大に左右差あるが立位レントゲンではなく評価は不能である。

YYYY/2/28 右足部単純X線撮影 右2方向

- リスフラン関節の開大・骨折は著変なし。

YYYY/3/4 右足部単純X線撮影 立位右2方向

- リスフラン関節の開大は約3mm、flake-signなし。
- 骨折は著変なし。
- 縦アーチは良好。

(中略)

第2 症状及び治療の経過

1. 本件交通事故に関連する症状及び治療の経過

YYYY/2/17 交通事故の発生

- 患者は、YYYY/2/17 に自動二輪車に乗車中、交差点にて停車していたところ、後方から走行してきた加害乗用車に追突されて受傷した（以下、「本件交通事故」という。）。その後、病院へ救急搬送された。

YYYY/2/17 病院受診経過

- 病院へ救急搬送され、レントゲンと CT 検査にて右第 1・2（内側・中間）楔状骨骨折の診断されている。
- 足先から下腿までギプスシーネ（オルソグラス及びエルウェーブ 4 号使用）で固定された。

YYYY/2/18～YYYY/10/9 病院受診経過

- YYYY/2/18 病院（以降、病院へ受診）受診。転位は軽度と診断され保存治療が選択された（同日病院診療録記載）。足背に挫創あり処置。ギプス固定された。
- YYYY/2/28 ギプスから足底板・シーネ固定に変更。リハビリ開始、疼痛の範囲で荷重開始された

（中略）

2. 自覚症状

患者には、症状固定時において、以下の自覚症状が残存している。

- ① 右リスフラン部痛
- ② 右足背部痛
- ③ 右足母趾痛

第3 医学的見解

1. 鑑定事項

- ① 患者の右足関節の動きが制限される器質的損傷の有無
- ② 患者の労働能力喪失期間として相当な期間

2. 医学的見解

(1) 鑑定事項①について

(中略)

(2) 鑑定事項②について

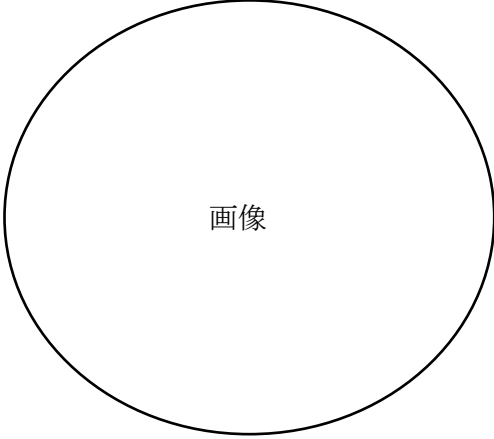
(中略)

参考文献1 “リスフラン関節損傷の手術治療” (仙台医療センター整形外科 伊勢福修
司 安倍美加 千葉知規 菅谷岳広)

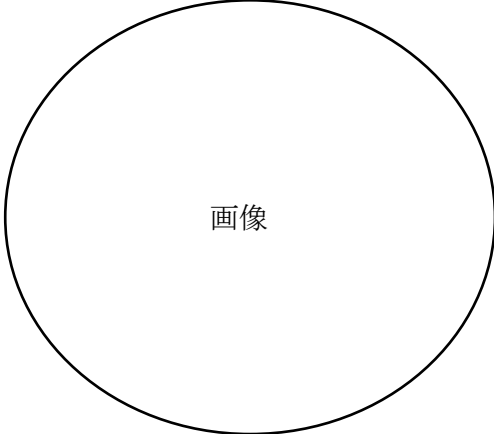
参考文献2 “Treatment of the Missed Lisfranc Injury” (Michael S. Aronow, MD)

別紙1 参考画像

参考画像1

| | | |
|---|---------------------|------------|
|  | 検査日 | YYYY年2月18日 |
| | 検査種類 | 単純X線撮影 |
| | コメント | |
| | • 右足部の内側・中間楔状骨骨折あり。 | |

参考画像 2

| | | |
|---|--|--------------------|
|  | 検査日 | YYYY 年 3 月 29 日 |
| | 検査種類 | 単純 X 線撮影 |
| | コメント | |
| | <ul style="list-style-type: none">• リスラン関節の開大は約 3 mm 残存している。• 骨癒合進んできているが、内側・中間楔状骨間の透亮像あり。不安定性を示唆する。• 縦アーチは良好。 | |

別紙 2 参照資料

第 1 鑑定画像

- YYY Y 年 2 月 17 日 右下腿単純 X 線撮影
- YYY Y 年 2 月 18 日 両足部単純 X 線撮影
- . . .

第 2 文書その他資料

- 後遺障害診断書 (YYY Y 年 10 月 17 日)
- 診断書 (YYY Y 年 2 月 18 日～10 月 17 日)
- 診療録 (YYY Y 年 2 月 18 日～YYY Y 年 10 月 17 日)
- . . .

別紙3 鑑定医師略歴

1 氏名

<略>

2 経歴

<略>

3 資格等

日本整形外科学会 整形外科専門医・認定スポーツ医